

広報つるおか

「支える 育てる 高める」
未来につなぐ芸術文化の拠点を目指して

鶴岡市文化会館
改築整備事業
特集号

—新文化会館の整備にあたり 市民の皆様にお伝えしたいこと—

はじめに

鶴岡市長 榎本政規

鶴岡市文化会館の改築工事について、市民の皆様をはじめ多くの方々に多大なご心配をお掛けしましたことをおわび申し上げます。9月30日執行の4回目の入札で落札業者が決定し、10月10日に契約について議会の承認を頂きましたことをご報告します。

決定までに3度の入札が整わなかったこともあり、文化会館改築整備事業への不安など、賛否両論、様々なご意見やご要望を頂きました。その中で速やかに建設に取り組み、早く文化会館を使えるようにして

ほしいという声が多いとの認識に立って進めてまいりました。

市民の期待にお応えできるように、また、新文化会館が人々に感動や喜びをもたらし、豊かな人生を送るための大きな力を与える施設となりますように、多くの皆様の積極的な参加を頂きながら、事業を推進してまいります。

なお、入札に大きな影響を与えた国の経済対策や震災復興需要、東京オリンピックなどによる工事需要が今後も続くことから、引き続き動向を注視し、平成29

年8月の完成を目指し、工事が予定通りに安全かつ着実に遂行されるよう進捗管理に努めます。

今回の特集号では、文化会館改築整備事業におけるこれまでの経過、工事費増額の要因、今後の財政負担の見込みや新文化会館の概要、今後の予定などについてご説明します。

当初の計画から完成時期が遅れ、利用者の皆様にご不便をお掛けしますことに、重ねておわび申し上げますとともに、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



芸術・文化活動の環境充実に向けて —文化会館の改築整備が始動—

整備の必要性

昭和46年に開館した「鶴岡市文化会館」。音楽、演劇などの鑑賞の場として、また、児童生徒や芸術文化団体等の発表の場として、さらには講演会、式典、集会などの場として多くの市民に親しまれ利用されてきました。

しかし、開館から約40年が経過し、施設設備の老朽化に加え、舞台の奥行きや袖の狭さ、客席や楽屋の劣化、またリハーサル室、練習室、待合スペースなどの不足、さらにはバリアフリー化や耐震化への対応も十分とは言えませんでした。これまで、修繕などの補修工事を行ってきましたが、抜本的な整備が必要でした。

整備に向けた検討 作業の開始

文化会館整備の検討作業を本格的に進めるため、平成22年11月から「文化会館整備に関する庁内検討会議」を行い、整備方法や建設地、スケジュ

ール等を検討しました。

整備方法については、改修と改築を比較検討しました。

その結果、改修では、十分な耐震性能の実現が難しいこと、舞台拡張や客席の改修に膨大な費用を要すること、また改修工事後の15年から20年までに再改修が必要であることなどの問題点が分かりました。そのため、ホールの基本的要件である「安全性」「客席数」「舞台面積」で、本市が必要とする条件を満たす、改築による整備方法を採用しました。財源については、大規模工事による多額の費用が見込まれ、本市単独の財源で整備した場合、大きな財政上の負担が懸念されることから、国からの財政支援措置のある有利な合併特例債を活用することとしました。

建設地の選定

27年度が期限（当時）の合併特例債を活用し、改築整備を進めるためには、23年度中に建設地について市の方針を定めることが必要でした。新

文化会館は、市民の文化活動の拠点施設として、都市機能の集積の観点から、21年策定の本市総合計画に「文化都心である中心市街地に新文化会館を整備する」方向性が示されています。そこで、候補地を「旧荘内病院跡地」と「現在地（文化会館・青年センター敷地等）」の2つとし、比較検討しました。

旧荘内病院跡地は、国の第2合同庁舎建設予定地であり、現在主に鶴岡公園や市総合保健福祉センター利用のための鶴岡公園東駐車場で、満車の日も多い状況です。したがって、ここに新文化会館を整備した場合、鶴岡公園周辺の公設駐車場の慢性的不足が懸念されます。

一方、現在地で整備する場合は、現有の駐車スペースを確保しつつ、周辺の公設駐車場も同様に利用できます。また、長期的なまちづくりの観点から、中心市街地に文教施設が集積され、にぎわいが生まれること、さらには、改築工事だけでなく、旧施設の解体工事にも合併特例債が活用できる利点を考慮し、約2年半の休館が必要になるものの、現在地を建設地とすることを

【市役所側から見た外観イメージ】



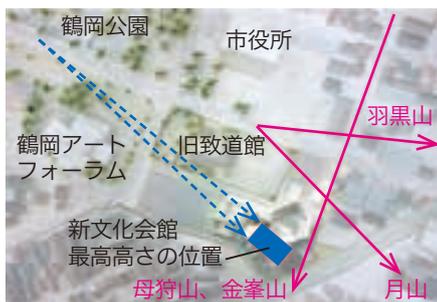
4月	3月	2月	1月	平成24年12月	11月	10月	8月	7月	6月	5月	平成23年2月	平成22年11月	平成21年1月	実施設計ができるまでの経過
・鶴岡市文化会館改築設計者選定委員会を設置 ・公募型プロポーザルを公告（鶴岡市文化会館改築設計業務委託）	・鶴岡市文化会館整備基本計画策定	・第9回検討委員会開催 ・鶴岡市文化会館整備基本計画策定	・市民からの意見公募（パブリックコメント）	・第8回検討委員会開催	・第7回検討委員会開催	・第5回検討委員会開催 ・第6回検討委員会開催	・第4回検討委員会開催 ・専門委員会（器楽、舞台、音響）開催	・利用者懇談会（学校関係）開催 ・第3回検討委員会開催	・利用者懇談会（芸術文化団体・鑑賞団体）開催 ・利用者懇談会（学校関係）開催	・市長定例会見で、現在地での改築を発表 ・鶴岡市文化会館整備検討委員会を設置 ・第1回検討委員会開催 ・第2回検討委員会開催	・市長定例会見で、文化会館の改築による整備を発表	・文化会館整備に関する庁内検討会議を立ち上げ	・鶴岡市総合計画策定、文化会館整備を盛り込む	



第2回市民ワークショップ



設計者による提案内容市民説明会



自然景観や歴史的建造物への配慮について検討



文化会館整備基本計画の「基本理念」

市の方針としました。

新文化会館の骨格 ―整備基本計画

新文化会館の整備方法や建設地について市の方針を定めたことで、整備基本計画の策定に着手します。様々な意見を反映させるため、23年6月に識見を有する方、芸術文化団体や住民自治組織の代表者の方、公募による市民の方など15名を委員とする「鶴岡市文化会館整備検討委員会」を設置し、新文化会館の具体的な施設規模・機能・構成や管理運営等について検討を行いました。また、芸術文化団体、青年団体、学校関係者等と意

見交換を行う懇談会や、同計画案への市民からの意見公募を行いながら意見集約を進めました。

市ではこれらの経過を踏まえ、24年3月に「鶴岡市文化会館整備基本計画」を策定しました。

同計画では、新文化会館の基本理念を「『支える 育て 高める』未来につながる芸術文化の拠点」と決めました。また、整備の基本方針や目指す施設の方向性、施設規模や機能などの施設計画、建設地や建物配置などの敷地計画を定め、さらに自然景観や歴史的建造物など、周辺景観との調和を図ることとしました。

市民の声を形に

―基本設計・実施設計の検討―

公募型プロポーザル で設計者を選定

新文化会館の設計者には、多くの方の協力を得て策定した整備基本計画の内容を十分に理解し、創造性や技術力に優れ、設計を行う過程で市民や行政と一緒に進めていくことができる能力を有する者を選定する必要があります。また、公平性と透明性の確保も重要

となります。

このため、設計者選定手続きに「公募型プロポーザル方式」を採用しました。

全国から広く提案を求めるとともに、市内設計業者の参加を促すために、代表企業枠とは別に市内企業専用の枠を設けました。また、選ばれた設計者は市内企業と共同企業体を結成することを条件としました。

平成26年 1月	11月	7月	5月	3月	2月	平成25年 1月	12月	10月	8月	7月	6月	
・実施設計市民説明会開催	・実施設計完了	・第2回基本設計市民説明会開催	・第1回基本設計市民説明会開催	・基本設計完了	・鶴岡市景観審議会（景観形成について審議） ・鶴岡市都市計画審議会（第1種高度地区内での整備について意見聴取）	・文化会館整備に係る近隣住民説明会開催 ・周辺景観との調和に対する市民からの意見公募	・第2回市民ワークショップ開催	・第1回市民ワークショップ開催	・選定結果の公表 ・設計者による提案内容の市民説明会開催	・代表企業枠第2次審査（5者への公開ヒアリング及び選定委員会開催） ・代表企業枠選定者が任意の市内企業枠選定者と設計共同企業体を結成	・市内企業枠審査（5者を選定）	・プロポーザル提案書受付（代表企業枠10者・市内企業枠5者が提出） ・代表企業枠第1次審査（5者を選定）

設計共同企業体「妹島・新穂・石川共同体」

◎構成員

（株）妹島和世建築設計事務所（代表企業枠／東京都江東区）
（株）新穂建築設計事務所（市内企業枠／市内本町一丁目）
（株）石川設計事務所（市内企業枠／市内藤島）

代表者：妹島和世（せじまかずよ）氏の略歴

昭和62年に妹島和世建築設計事務所設立。平成7年に西沢立衛氏とSANAA（サナア）設立。近作に、金沢21世紀美術館、ニューミュージアム、ROLEX ラーニングセンター、ルーブル・ランス他。第12回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展総合ディレクターを務める。日本建築学会賞、プリツカー賞など受賞多数。



第2回基本設計市民説明会



何種類も試作されたホールの模型

市民説明会やワークショップの開催

その結果、プロポーザルには代表企業枠に10者が、市内企業枠に5者が参加。「鶴岡市文化会館改築設計者選定委員会」での書類審査や、公開プレゼンテーションとヒアリングによる審査を行い、（株）妹島和世建築設計事務所を代表企業枠選定者として特定。平成24年8月6日に、妹島・新穂・石川共同体と文化会館改築設計業務委託契約を締結しました。

新文化会館の具体的な設計に市民の声を反映させるため、設計者をはじめ、舞台や音響の専門家等による市民への説明会やワークショップ等を行いました。

プロポーザルで提案された新文化会館整備の考え方についての説明会では、参加した市民から、工事施工や施設のメンテナンスの負担を軽減することや、音響の質を高めることなどの声が寄せられました。また、ワークショップでは、出演者、鑑賞者、施設利用者という立場で、どのような機能が求められるかが話し合わせ、模型や完成予想図を

活用しながら、舞台や客席、ホールなどの館内配置や、新文化会館の外観や他の施設を含めた全体の景観などについて議論が交わされ、設計者と市民とでイメージを形にしていきました。

外観については、日本海側特有の降雪や積雪にも対応できるような屋根とすることや、一体感や臨場感を得ることができるといった意見が出され、配慮について意見が出されました。このような市民の声を形にするため、何度も模型を制作し検討を重ねながら基本設計を固めていきました。

新文化会館の景観については、市民説明会やワークショップを通して検討を重ねるとともに、致道館をはじめとする周辺の環境との調和について市民から意見を公募しました。その結果等を踏まえ、鶴岡市景観審議会に諮りました。同審議会では、30mに及ぶ建物の高さや屋根形状について、合成写真やコンピューターグラフィックスを基に審議され、「市街地環境上支障がなく、良好な景観形成が図られる」との結論を得て、25年3月、基本設計が完了しました。

■ 用語解説 ■

【パブリックコメント】 公衆の意見。また、公的機関等が命令・規制・基準などを制定・改廃する際に、事前に広く一般から意見を募ること。意見公募手続き。

【プロポーザル】 主に業務の委託先や建築物の設計者を選定する際に、複数の者に目的物に対する企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った者を選定すること。

【ワークショップ】 講師が一方向的に話すのではなく、参加者自身が討論に加わったり、実際に体験したりするなど、参加体験型、双方向型のグループ学習。

【地方交付税】 所得税など国が徴収した税金の中から、市の財政状況に応じて交付されるお金。

【普通交付税】 地方交付税のうち、市の財政不足額に対して配分されるお金。

【市債】 建設事業や財政対策などに必要なものとして、国や金融機関などから借り入れるお金。

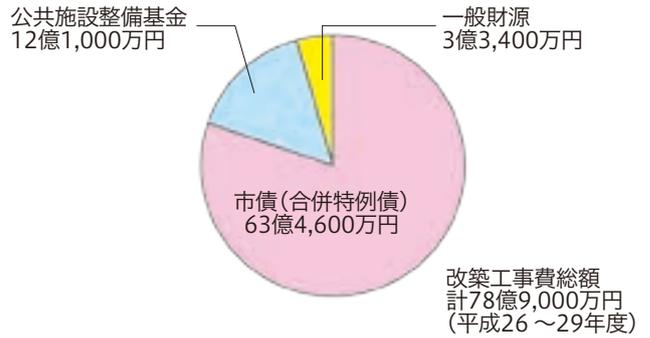
【合併特例債】 合併した市町村が新しいまちづくりのため、新市建設計画に基づき実施する事業のうち、特に必要と認められる事業に対する財源として、借り入れることができる市債（借入金）のこと。合併特例債の活用は、合併初年度を含む15か年度（本市では平成32年度まで）に限られます。なお、活用する事業費のおよそ95%まで借り入れることができ、借り入れた市債の将来支払う元利償還金の70%が普通交付税に算入され、国からの支援を受けることができます。

【起債】 市債などの債権を発行すること。

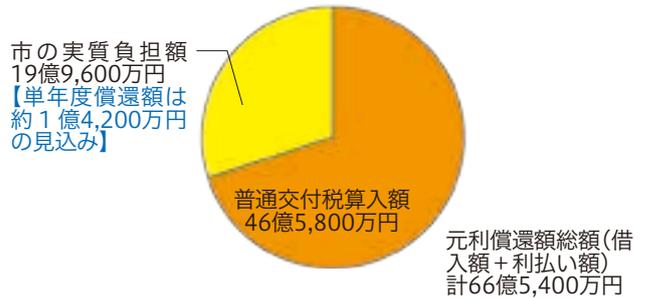
【公債費】 市債返済に充てるお金。

【償還】 借入金を返済すること。

文化会館改築工事費
(予算額) の財源内訳



文化会館改築工事費に係る
合併特例債の実質負担見込額



入札を行いました。
1回目の入札不調の要因として、大規模な地下構造や曲面を持つ施設形状で、特殊工法が必要であること、地元企業の資機材調達への価格交渉が困難なこと、さらには労務費や資材仕入れ価格等が上昇していることが推察されたことから、工事費積算の点検・見直しを行った結果、約6億円増額となる補正予算が4月25日に臨時市議会承認されました。2・3回目の入札時には、本體工事費を約59億円としました。

4回目の入札時には、本體工事費は78億9,000万円となりましたが、増額の主な要因は次の2つです。1つは、建築資機材の見積価格の上昇です。主要機材の鉄骨やガラス、内外装用の建築資機材、非常用電源装置などの機器・設備の価格上昇が続いています。もう1つの要因は、建築工事における仮設費の見直しです。土工事、主要構造部、屋根等の足場や基礎工事時の止水対策など、施工上の安全対策の強化を図りました。これらの見直しによって、本體工事費が約19億9,000万円の増額となりました。

将来の財政負担と財政指標への影響

文化会館改築工事費の財源は、一般財源3億3,400万円の他に、25年度に新たに交付された「地域の元氣臨時交付金」を積み立てた公共施設整備基金12億1,000万円と、合併特例債63億4,600万円を充てる予定です。合併特例債の償還に係る市の実質負担は約3割で、現在の金利の場合、15年(予定)の償還期間の元利償還額総額約66億5,400万円のうち、約19億9,600万円が市の負担で、単年度では約1億4,200万円(公債費全体の負担額の約5%)を見込んでいます。また、光熱水費や建物設備の保守、維持管理などの経費として、他市の同規模施設の利用状況などから推測して、毎年約1億円を見込んでいます。

さらに、同事業が本市の財政指標にどのような影響を与えるかについて、25年度決算額に基づく試算も行いました。その結果、比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを示す「経常収支比率」は昨年度87・7%で、同事業の償還で0・2%上昇しますが、合併以降最も比率が高かった19年度の96・2%から大幅に改善しており、大きな影響はありません。また、自治体の資金繰りの危険度を示す「実質公債費比率」は昨年度9・0%で、同様に0・2%上昇する見通しですが、起債をするために国の許可が必要になる基準(18%)、財政状況が悪化した状態であるかを判断する基準の早期健全化基準(25%)をいずれも大きく下回っており、適正な水準を引き続き維持できます。

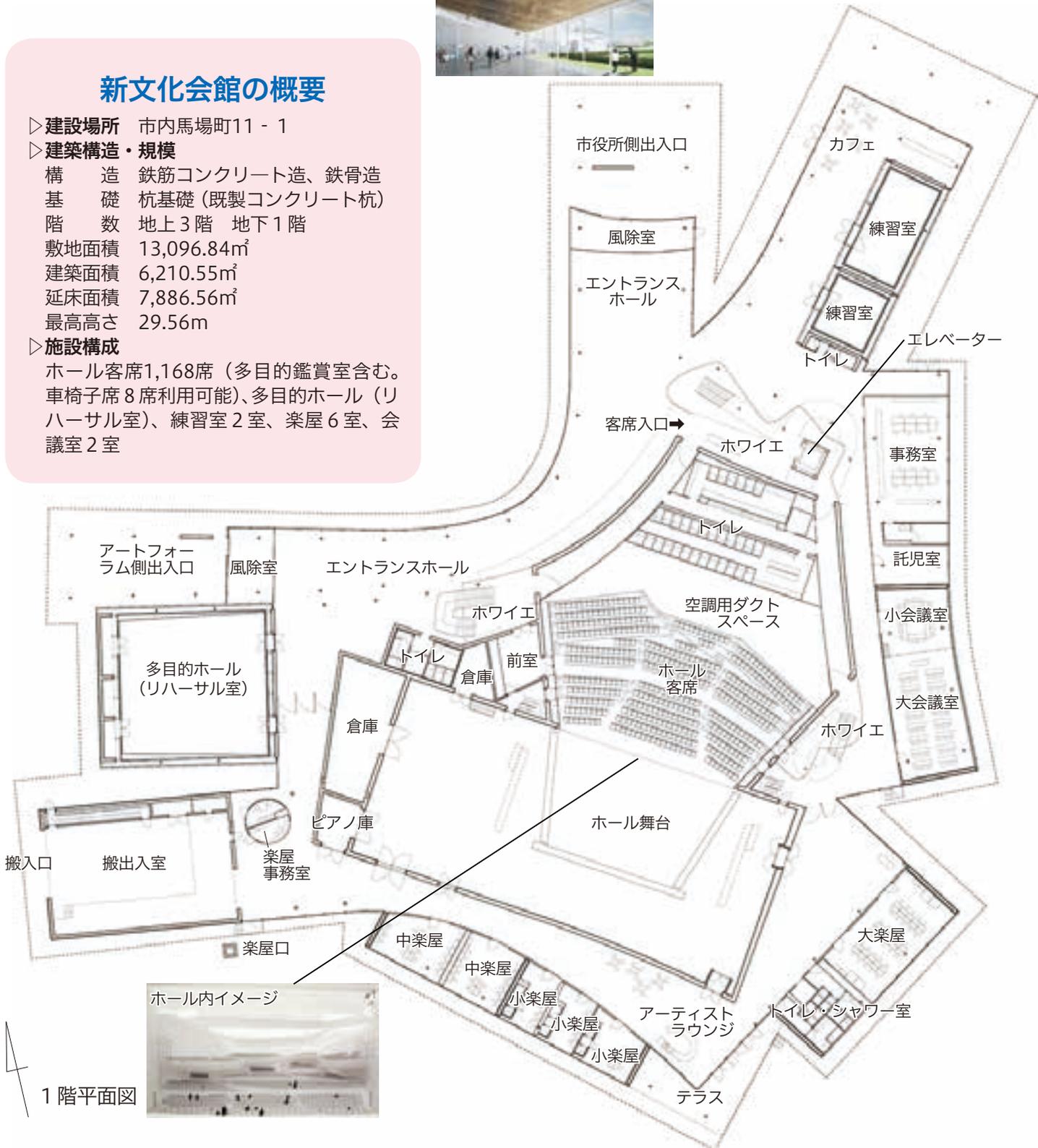
市民の皆さんに親しまれる 新文化会館に



新文化会館の概要

- ▷ **建設場所** 市内馬場町11 - 1
- ▷ **建築構造・規模**
 - 構造 鉄筋コンクリート造、鉄骨造
 - 基礎 杭基礎(既製コンクリート杭)
 - 階数 地上3階 地下1階
 - 敷地面積 13,096.84㎡
 - 建築面積 6,210.55㎡
 - 延床面積 7,886.56㎡
 - 最高高さ 29.56m

- ▷ **施設構成**
 - ホール客席1,168席(多目的鑑賞室含む。車椅子席8席利用可能)、多目的ホール(リハーサル室)、練習室2室、楽屋6室、会議室2室



1階平面図

文化エリアの街並みに調和した外観

新文化会館は、旧文化会館旧青年センター、市役所第2駐車場、鶴岡産業会館・商工会館の跡地に整備されます。敷地周辺には致道館や大宝館などの歴史的建造物等が多くあり、また、鶴岡アートフォーラムや鶴岡タウンキャンパスなどの現代的建築物も整備されている本市の文化エリアです。

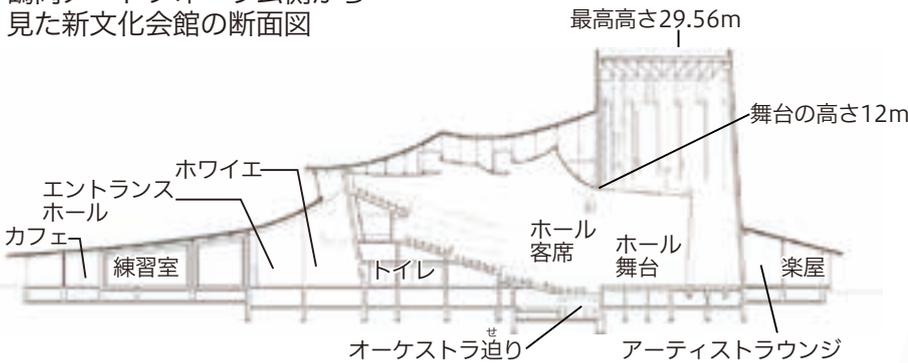
敷地に沿って内川が流れ、遠くには月山や金峯山などの山々を望むことができるこのエリア。ここに建設される新文化会館の外観は、複数の屋根と壁が柔らかく重なった形状をしています。この形状は、直線的な形状の構造物よりも周囲への圧迫感を和らげ、周辺の街並みや自然景観との調和を図る狙いがあります。

市民が集い、繋がる交流の場—回廊空間

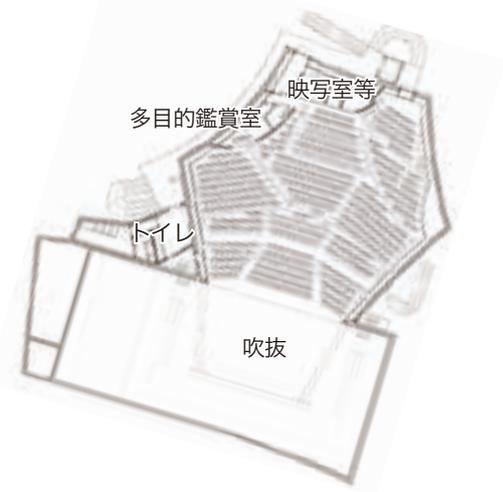
館内はホールを中央に配置し、それを取り囲むように、多目的ホールや楽屋、練習室、会議室、ラウンジ等が配置された回廊空間となります。

この回廊空間は、それぞれ

鶴岡アートフォーラム側から見た新文化会館の断面図



バルコニー席平面図



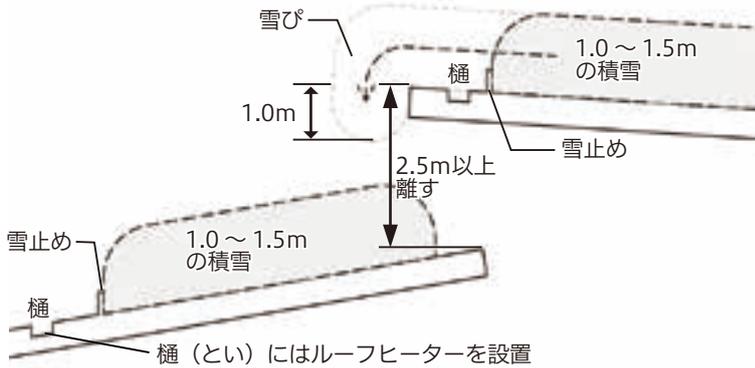
1・2階席平面図

【積雪の対策】

屋根に雪止めを付け、雪を溜める形になります。雪に対する安全性については、1.5mの積雪に応じた荷重を算定し、構造計算によって積雪時に建築物が構造耐力上安全であることを検証済です

【雪びの対策】

過去の気象データを基に、模型を使った風洞実験を行い、屋根同士の高さの関係は、上の屋根からの雪びと下の屋根の積雪が合体しないように計画しています



ホールは、演劇や演奏を発表する演者とそれを見守る観客が感動を共有できるように、一体感を生み出す音響設計と客席配置が施されています。音響設計については、外部や館内、設備から生じる騒音防止のため、振動を抑える高性能遮音構造や吸音材等を採用します。一方、演者の音がホール全体に満遍なく豊富に響くよう音響反射材等を採用

一体感を生み出すホールー劇場空間

また、文化会館のエントランスは、市役所側と鶴岡アートフォーラム側につながるよう設計され、館内も含め周辺施設への回遊を促す役割を果たしています。

この空間で行われる多様な芸術活動等に触れることができ、そこから新しいつながりや交流が生まれることも期待されます。また、文化会館のエントランスは、市役所側と鶴岡アートフォーラム側につながるよう設計され、館内も含め周辺施設への回遊を促す役割を果たしています。

さらに、優れた舞台芸術の公演をはじめ、様々な利用形態に十分配慮し、機能的で安全性の高い舞台機構、照明設備の計画を行いました。吊物設備は、地震に対する安全性、作業技術者への負担軽減のため、電動巻取り方式のシステムとしました。

座席数は多目的鑑賞室も含め1、168席で、旧文化会館よりゆったりと座れる椅子幅と前後間隔になっています。また、客席最前部にはオーケストラ迫りを設置し、必要に応じて舞台と客席を使い分けることができます。

客席配置は「ワインヤード型」と呼ばれる形状を採用しました。客席がぶどうの段々畑のように分割され、その客席が舞台を取り囲むように配置されるもので、一体感を生み出す効果があります。また、バルコニー席を使わない小規模な公演も可能で、席が空いた印象にならないように考慮しています。

経済性と環境への配慮

新文化会館を多くの方から長い期間利用してもらうためには、施設の保守管理の経費負担や事務負担の軽減が求められます。そのため、特殊素材・仕様のもは極力避け、LED照明器具、人感センサーの設置など、省エネ効果の高い資機材を利用し、環境負荷の軽減に努めています。また、屋根面から雨水を集水し、ろ過処理した上で、トイレの洗浄水に利用します。

災害時にも安全な施設

建物の主体構造部は、ホール・客席等が鉄筋コンクリート造、回廊部分が鉄骨造で構成されます。庄内地方で発生が予測されている地震に対応できるように、16m×22mの基礎杭や耐震壁、鉄骨柱などを効果的に配置し、剛強な地上構造で建設します。屋根は強度を確保しつつ軽量化を図り、主体構造部への負荷を軽減します。これによって、建築基準法で求められる数値の1.25倍の耐震性能を達成し、仮に大型地震が発生した場合

でも、人命の安全確保、二次災害の防止とともに施設の機能保全を図られます。さらに一定時間運転可能な非常用発電機を設置し、災害時の備えとしています。

駐車場について

新文化会館と鶴岡アートフォーラムに囲まれた現在の市役所第2駐車場が最寄りの駐車場となります。駐車台数はバス等の大型車2台、障害者等用4台を含む、最大150台です。

大規模な公演が行われる場合は、鶴岡公園周辺の無料の公設駐車場（各駐車場の合計は450台程度）を利用することが出来ます。



新文化会館を本市の文化振興につなげる

—管理運営計画づくり—

市民と歩む新文化会館を目指して—管理運営計画

新文化会館においては、ハード整備だけではなくソフト事業も一体となり、車の両輪となつて、市民の多様な文化の拠点となる文化会館を活性化し、心豊かな地域づくりを推進していく必要があります。そこで、開館後の事業計画や管理運営体制、また市民参加の在り方など、新文化会館の運営指針を検討することが必要であることから、平成24年12月に「鶴岡市文化会館管理運営計画検討委員会」を設置し、8回に及ぶ検討委員会の他、ワークショップや市民からの意見公募を実施しました。

検討委員会やワークショップには、全国の公立文化施設の運営等に携わってきたアドバイザーを招き開催。新文化会館への期待をまとめるとともに、運営や管理、評価などでの市民参加の在り方、開館時間や利用料金の設定、利用申込みや情報発信の方法などについても意見を出し合い、

新文化会館の運営方針等を具体化する議論を重ねました。以上を踏まえ、今年3月に

策定した「鶴岡市文化会館管理運営計画」では、管理運営の6つの基本方針として、活動・育成・創造・鑑賞・発信・交流の拠点を定めることとしました。また、それらを実現するために、施設提供・育成・参加体験・鑑賞・地域発信・交流にぎわい創出事業を積極的に進めていくこと、運営主体、組織体制や市民参加の方向性、収支・広報計画などを定めました。

今後の予定

今後は、新文化会館の運営のための具体的な事柄を定める管理運営実施計画の策定に着手します。さらに、ワークショップの実施や愛称募集などを通じて、市民と一緒に参加できる場を提供していきます。また、引き続き設置条例の制定や指定管理者の指定等必要な手続きを行い、文化会館の早期開館を目指し準備を進めます。

■管理運営の6つの基本方針

- ①多様な文化活動を支え、活性化する機会を創出します
- ②未来を担う子どもたちや文化活動を行う市民を育てる機会を創出します
- ③創造の輪を広げ、新しい文化に触れる機会を創出します
- ④優れた舞台芸術に触れ、豊かな心を育む機会を創出します
- ⑤地域資源・魅力を発信し、広く認知してもらう機会を創出します
- ⑥多様な人々が集い、出会いつなげる機会を創出します



Q 設計をやり直したほうが、短期間で安く完成できるのでは？

A 仮に工期短縮を考慮した四角い建物であっても、意思形成や再設計に時間を要することから、完成時期は今よりさらに1年半以上も遅れ、また、震災復興需要に加え東京オリンピック関連工事によって建設コストの上昇は更に進み、工事費の削減はより困難になると予測しています。さらに、平成26年度中に工事着工ができない場合は、国の臨時交付金が活用できず、その分を加えて合併特例債を充当することとなり、市の負担が増加します。これらの事情を考慮した結果、現在の設計で整備を進めた方が短期間で負担が少なく整備できると考えています。

Q どのような工事費削減努力をしてきたのか？

A 実施設計にあたっては、コンクリート及び鉄骨、屋根形状の見直しや施設面積の縮小などの工事費の削減努力を行いました。また、一部曲面ガラスの廃止、屋根材の変更、屋根面積の縮小を行うとともに、建物の品質を保ちながら製品や資材の仕様変更や、施工方法の見直しを行い、更なる工事費の縮減を図りました。

Q ガラスが多い建物は、冷暖房費が余計にかかるのでは？

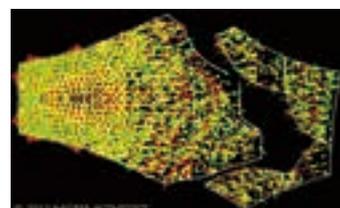
A 室内の空調（回廊の床^{ふく}輻射による居住域空調、各諸室単位の個別空調）などによって、室内環境やランニングコストに配慮した計画としています。また、外周部の長く伸びたひさしが、雨や雪が建物に当たるのを避け、夏の日ざしを遮ります。なお、エントランスホールの一部や、多目的ホール、練習室等のカーテンウォールのガラス面を壁に変更しています。

Q 建物の高さが前よりも高くなるのはなぜか？

A 旧文化会館は、舞台間口の高さが7m、建物の最高高さは17mでした。新文化会館では、現代の多様な舞台芸術に対応するために、舞台間口の高さは12mとなり、舞台設備機構を収容するスペースが必要となるために、建物の最高高さは約30mとなります。

Q 「生の音の響き」を重視するために、どんな設計の工夫をしたのか？

A クラシックコンサートに適したホール室形状の条件は、初期反射音が、客席・舞台に満遍なく豊富に、時間的にバランスよく、様々な方向から到来することです。今回は、建築デザインと調和を図りながら、初期反射音に注目した室形状の検討を、コンピュータシミュレーションを用いて実施しました。その結果、舞台客席全体に、いろいろな方向から、反射回数の異なる反射音が満遍なく豊富に得られている室形状となり、演じる方も聴く方も快適な一体感のあるホールとなっています。また、ホールにふさわしい静けさを確保するため、室内騒音低減目標として、最近の多くの同規模の会館や、近隣の希望ホール、響ホール等と同等のNC - 20を設定しました（NC値…静けさを表す評価量で、数字が小さいほど静かなことを表します）。



コンピュータを使って最良の響きが得られるホール形状を設計

Q 休館中、他の施設の利用によって、負担が増える分の助成はあるか？

A 文化会館の休館中は、できるだけ市内の施設を利用させていただきたいと考えていますが、活動の規模や内容によっては、他市町の文化施設を利用しなければならない場合もあると考えられます。学校等への聞き取り調査の結果を受けて、来年度から、児童生徒の活動で他施設利用に伴う経費の負担増に対して支援します。

新文化会館オープンまでの間、 ご理解とご協力をお願いします。

市民の皆さんから様々な活動でご利用いただいた旧文化会館（及び旧青年センター）は、今年7月に解体工事を完了しました。

今後、平成29年8月31日までの工期で建設工事を実施します。その後、外構工事、備品等の購入、開館準備等を行い、新文化会館オープンに向けた整備を進めていきます。

なお、休館期間中は、下記の公共施設等の利用をご検討ください。利用に際しては、各施設へ直接お問い合わせください。

皆さんには、大変ご不便をお掛けすることになりますが、新文化会館オープンまでの間、ご理解とご協力をお願いします。



■ 鶴岡市内の主な公共施設

施設名	所在地	電話番号	ステージ面積	客席定員(人)
中央公民館(市民ホール)	みどり町22 - 36	25 - 1050	157㎡	466(固定席)
中央公民館(大視聴覚室)			40㎡	100
鶴岡アートフォーラム(交流広場) ※夜間のみ	馬場町13 - 3	29 - 0260	36㎡	80
出羽庄内国際村	伊勢原町 8 - 32	25 - 3600	35㎡(最大) 【可動式】	250
藤島地区地域活動センター	藤島字笹花73	64 - 2119	56㎡	300
東田川文化記念館(明治ホール)	藤島字山ノ前99	64 - 2537	25㎡	200
羽黒コミュニティセンター	羽黒町荒川字谷地堰28	62 - 4627	67㎡	400
櫛引公民館	上山添字文栄90	57 - 5670	74㎡	400
中央生涯学習施設すまいる	下名川字落合220	53 - 2111	51㎡	300
温海ふれあいセンター	温海戊577 - 1	43 - 4411	84㎡	700(可動・固定席計)
鶴岡地域コミュニティセンター	第一学区コミュニティ防災センター【文園町1 - 63】☎25 - 1615 第二学区コミュニティ防災センター【昭和町11 - 22】☎24 - 8032 第三学区コミュニティセンター【泉町5 - 30】☎24 - 2212 第四学区コミュニティセンター【稻生一丁目10 - 80】☎24 - 4789 第五学区コミュニティ防災センター【宝町18 - 77】☎22 - 4766 第六学区コミュニティ防災センター【みどり町22 - 28】☎22 - 5346 斎コミュニティ防災センター【我老林字野中川原35 - 2】☎22 - 0985 黄金コミュニティ防災センター【青龍寺字北内203 - 1】☎22 - 5743 湯田川コミュニティセンター【藤沢字西側174 - 1】☎35 - 2111 農村センター【矢馳字上矢馳258】☎22 - 0798(夜間・休日☎25 - 7879) 京田コミュニティ防災センター【高田字下村336 - 1】☎22 - 0762 栄コミュニティ防災センター【播磨字若松95 - 1】☎29 - 2105 田川コミュニティセンター【田川字中川原6 - 1】☎35 - 2003 上郷コミュニティセンター【みずほ49 - 1】☎35 - 2001 三瀬コミュニティセンター【三瀬字堅田138 - 8】☎73 - 2001 小堅コミュニティセンター【小波渡字浜田43 - 2】☎73 - 2243 由良コミュニティセンター【由良二丁目14 - 53】☎73 - 2905 加茂コミュニティセンター【加茂字岩倉241 - 3】☎33 - 3023 湯野浜コミュニティセンター【湯野浜一丁目1 - 7】☎75 - 2300 大山コミュニティセンター【友江町23 - 71】☎33 - 3213 西郷地区農林活性化センター【下川字龍花1 - 1】☎76 - 2301			
※ステージや照明設備等を完備していない施設もあります。詳しくは各施設へお問い合わせください。				

鶴岡市文化会館改築整備事業及びこの特集について
 詳しくは鶴岡市教育委員会社会教育課（櫛引庁舎）へ
 ☎57 - 4867 ✉skyouiku@city.tsuruoka.lg.jp